

ごあいさつ



平素より気仙沼信用金庫に対しまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当金庫の経営方針や業務内容、財務内容をはじめ、各種地域支援の取組みをご理解いただくため、「気仙沼信用金庫ディスクロージャー2024」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いです。

さて、令和5年度を振り返りますと、国内経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴いそれまで自粛されていたイベントの復活や国内外への旅行客の増加など社会経済活動の正常化が進むと同時に、企業による高い賃上げなどデフレ脱却に向けた動きが進展したことや、株価においてはバブル経済崩壊以降の高値を更新するなど、経済回復への明るい兆しを感じられた年でありました。ただその一方で、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の不安定化、円安による原油価格の高止まりや輸入原料の高騰など、国内経済を取り巻く環境が依然として不透明なまま推移した年でもありました。

また、当金庫の営業エリアにおきましては、気仙沼魚市場では、カツオの豊漁により、震災後において最高水揚げ金額を達成したほか、岩手県大船渡市では、サンマ水揚げが数量・金額とも、昨年度に引き続き本州一位を達成するなど、明るい話題もありました。しかしながら、魚種によっては漁獲量が回復せず長期にわたっての不漁の継続や、海洋環境の変化による水揚げ魚種の変化など、今後、地域経済に与える影響に不安を残した一年でもありました。

そのような中、当金庫運営におきましては、これまでの東日本大震災からの復興および創生推進はもちろんのこと、地域の持続的発展のために販路開拓支援や経営改善支援等へのさらなる注力および人材育成への取組みの推進等を事業計画に掲げ、役職員一丸で取り組んでまいりました。

令和6年度におきましても国内での金融機関を取り巻く経営環境は、今後も厳しさを増すものと思われます。またその中において当金庫の営業環境につきましても、人口減少による地域経済の縮減懸念など様々な課題が山積しておりますが、これまで以上に金融仲介機能の発揮と、地域金融機関としての存在感を遺憾なく発揮し、地域の持続的発展に向けて役職員一丸となって貢献してまいりる所存ですので、会員の皆様方には、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員皆様方のご健勝での益々のご活躍とご隆盛を心よりお祈り申し上げます、ごあいさつと致します。

令和6年6月

気仙沼信用金庫
理事長 小山 栄太郎

